



高山社跡



指定名称
国指定史跡
高山社跡

所在地
藤岡市高山字
竹之本236番地1外

指定面積
8,099.73m²

所有
藤岡市

概要

たかやましゃあと
高山社跡は、高山長五郎が近代養蚕方法「清温育」を開発し、その普及のための教育機関を設立した場所です。長五郎は文政13年（1830）にこの地で生まれ、養蚕の改良に取り組み、明治16年頃、当時主流だった換気を重視した「清涼育」と蚕室を暖めて飼育する「温暖育」双方の長所を取り入れ、蚕室の温度調整や換気を行う養蚕方法として、「清温育」を完成させました。そして、この「清温育」の普及のため、明治17年（1884）養蚕教育機関「養蚕改良高山社」（以後「高山社」）を設立し、初代社長に就任しました。



大正時代頃の高山社

「高山社」は増加する生徒に対応するため、明治20年（1887）には事務所及び伝習所（校舎）を藤岡町（現藤岡市）に移転し、明治34年（1901）には「甲種高山社蚕業学校」に組織替えしました。昭和2年（1927）廃校になるまでに全国47道府県はもとより中国、台湾、朝鮮半島から生徒が入学し、それらの地域には現地指導のための養蚕教師も派遣されました。この結果、「清温育」は全国に普及し近代日本の標準的な養蚕方法になり、高山社は「全国の養蚕の一総本山」と呼ばれました。また、20世紀に入ると富岡製糸場が進めていた繭品種の改良や統一運動にも参加し、新品種の飼育や飼育法の指導、品評会への協力を行いました。

現在、高山社跡に残る母家兼蚕室は、長五郎の娘婿の武十郎が清温育を行うための理想的な蚕室として明治24年（1891）に建設し、実習を行う分教場として利用されました。これ以外に、江戸時代末から明治時代前半に建てられた長屋門・外便所等の建物や桑貯蔵庫跡が残されています。

高山社跡は、我が国が成し遂げた良質な生糸の大量生産に貢献した養蚕技術の革新と交流を示す資産として重要であることから、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産として、世界遺産登録を目指しています。

見学のご案内



高山社跡



■行き方

○公共交通機関を御利用の場合

JR八高線「群馬藤岡駅」から市内バス「たかやま号」三ツ木～高山線、二千階段入口行きで「高山下組」停留所下車、徒歩約200m（二千階段行きバス1日に3本）

○自動車を御利用の場合

- ・上信越自動車道藤岡インター藤岡市内方向出口→上大塚交差点を鬼石・神流方面へ左折→本郷交差点を長瀧・鬼石方面へ右折→県道前橋・長瀧線宿神田を高山方面へ右折
- ・駐車場無料

■見学をする上での注意点

- ・土曜、日曜、休日及び観察等の見学の場合は、下記問い合わせ先に、御連絡ください。

■関連する見学地

- ・諏訪神社（高山長五郎の顕彰碑）
- ・藤岡歴史館（高山社関係資料の展示）（TEL.0274-22-6999）
- ・興禪院（高山家の菩提寺）

問い合わせ先

藤岡市教育委員会文化財保護課
TEL.0274-23-5997

群馬県